**横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 公開コロキウム**

**海洋と宇宙に関する産学連携セミナー：第２回**

**「船舶・海洋への宇宙利用：モニタリングへの衛星利用」**

**主催：横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター**

**共催：神戸大学 海事科学研究科 国際海事研究センター**

**東京海洋大学 海洋工学部**

**海洋は物流の大動脈であり、かつ人類に残された資源の宝庫である。21世紀に新たなグローバルコモンズとなった宇宙を海洋に活用することの彼方に、国際的な海洋の持続可能な利用の道と、海洋情報大国としての日本の大きな将来像を展望したい。**

**2014年8月29日（金）12:30開場 13:00開始 16:45終了**

**横浜国立大学 中央図書館メディアホール（**<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>**）**

横浜駅西口バス停10番から、12:13発、12:28発横浜大学構内行きに乗り、国大北で下車徒歩２分

横浜駅西口バス停9番から、12:00、12:15、12:30発上星川行又は釜台住宅第３行きに乗って約20分、

釜台住宅第一で下車 徒歩7分

**参加無料**

**プログラム**

**12:30 開場**

**13:00 開始：挨拶（YNU 海センター）**

**講演**（各20分+質疑応答5分）司会 吉田公一 （講演の概要は、後日お知らせいたします）

13:05～14:45

海洋サーベイ／モニタに利用できる衛星の現状と将来 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

伊藤徳政氏

船舶運航への宇宙利用 東京海洋大学 庄司るり教授

次世代を含むAISと衛星 海上保安庁 野口英毅氏

海洋資源（水産）と宇宙利用（仮題） 北海道大学 齋藤誠一教授

**休憩（14:45～15:00）**

15:00～15:50

海事衛星通信の現状と将来：日本無線株式会社 宮寺好男氏

宇宙からの海洋監視：歴史と展望，そして課題 NPO宇宙利用を推進する会 木内英一氏

**パネル・ディスカッション 15:50～16:45**

**今後の海洋への衛星利用の展望と、共同研究の可能性を探る。**

16:45 終了 17:00 退出完了（夏季期間中につき、総合図書館が17時に閉館します）

**17:00～19:00 学内レストラン・ポルティで懇親会を催しますので（会費3000円程度を予定）、ネットワーキング、情報交換など、是非ご参加ください。**

**メディアホールを含む図書館内は飲食できません。**

**図書館入口の外で、休憩時間中に飲み物を提供いたします。**

**参加申し込み及び連絡先**

**お名前、ご所属、連絡先（Eメールアドレス、電話番号）をご記入の上、**

**横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター（海センター）** [**kaiyo@ynu.ac.jp**](mailto:kaiyo@ynu.ac.jp)**）**

**へメールで、8月25日までにご連絡ください。申込書の書式例を以下に示します。**

**各講演の概要**

海洋サーベイ／モニタに利用できる衛星の現状と将来 伊藤徳政氏

JAXAでは現在、水循環変動観測衛星「しずく」（GCOM-W）搭載マイクロ波放射計(AMSR2)で海面水温、海上風、海氷などを観測している。また、小型衛星SDS-4搭載AIS受信機による船舶のモニタも実験的に実施している。本年5月24日には陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)を打ち上げ、現在、合成開口レーダ（PALSAR-2）の観測性能の確認を実施している。平成28年度には可視近赤外放射計（SGLI）を搭載した気候変動観測衛星（GCOM-C）の打ち上げを予定しており、分解能が高い海面水温や海氷、海色などの観測データの提供が可能となる。その他、海外のものも含めて、海洋観測に利用できる衛星を紹介する。

次世代を含むAISと衛星 海上保安庁 野口英毅氏

AISは、本来、航行の安全を支援する目的で開発されたが、デジタルデータを送受信し、また、衛星探知が可能なことから、海洋監視等の様々な目的で活用されてきている。しかし、AIS回線が混雑し、本来の目的を損なう恐れがでてきたため、国際航路標識協会（IALA）は、次世代AISとなるVHFデータ交換システム（VDES）の開発に着手した。海上保安庁でも、このような動きに応え、海洋政策研究財団（OPRF）とともに、世界に先駆けて、VDESの国際標準化を図るためのワークショップを開催している。VDESの特長の一つとして、衛星との双方向通信機能が検討されており、船舶・海洋への宇宙利用がさらに進むことが期待されている。

海事衛星通信の現状と将来：日本無線株式会社 宮寺好男氏

1982年に始まったインマルサットＡサービスにより本格的な海事衛星通信が開始されたが、通信方式はアナログからデジタルへと変わり、海上でもブロードバンド通信の導入が始まっている。現在、インマルサットFBBやESV（船舶用VSAT）により海上におけるデータ通信が実現されているが、インマルサット社が計画中のInmarsat Global Xpressにより、新たな海上ブロードバンドの時代が到来しようとしている。海事衛星システムの遷移や、海上で利用できる衛星通信システムの最新の動向について紹介する。

**海洋と宇宙に関する産学連携セミナー：**

**第２回**

**「船舶・海洋への宇宙利用：モニタリングへの衛星利用」**

**参加申込書**

**2014年8月29日13:00～16:45**

**横浜国立大学 総合図書館メディアホール**

|  |  |
| --- | --- |
| **お名前** |  |
| **ご所属** |  |
| **連絡先メール** |  |
| **電話番号** |  |
| **懇親会（17:00～19:00）**  **へのご参加** | **参加 不参加** |